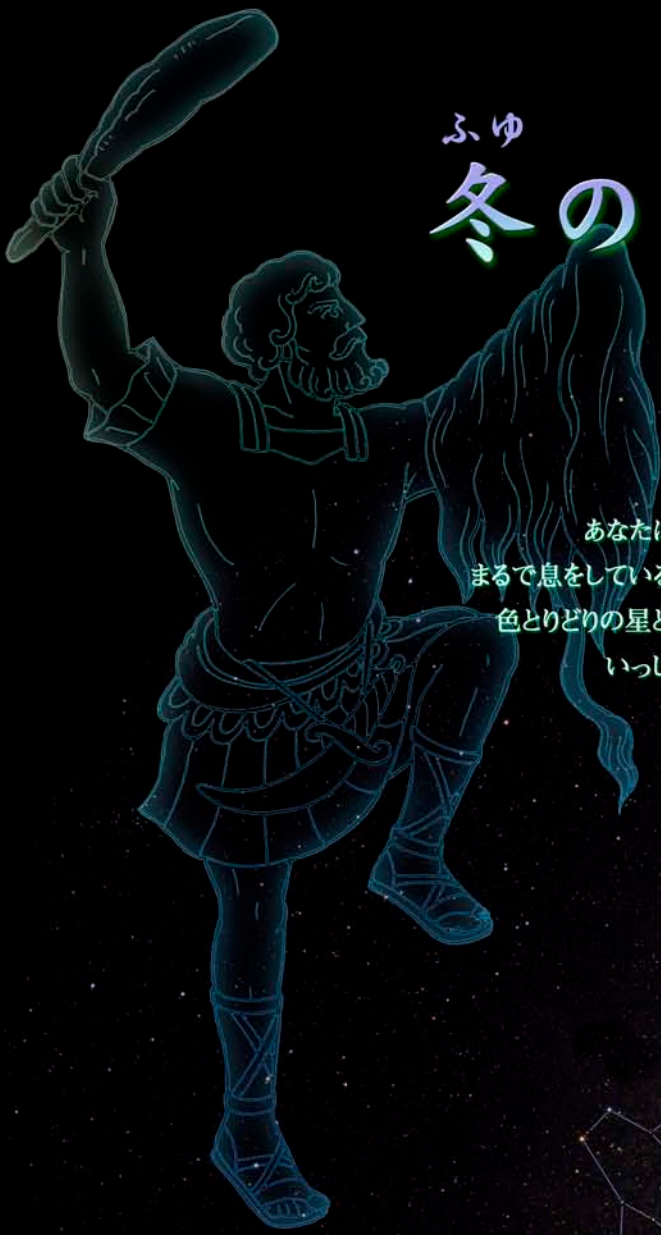


ふゆ せいざかいせつ
冬の星座解説



冬、さむーい冬。
あなたは好きですか？ それとも…？
まるで息をしているように、きらきらとまたたく満天の星々。
色とりどりの星と天体がちりばめられた冬の星空を、
いっしょに楽しんでみませんか？

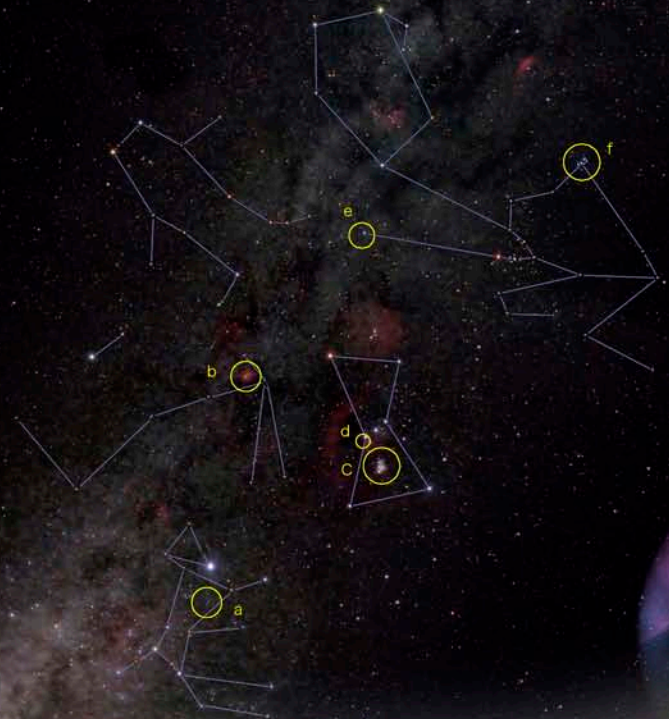
メローペ(プレアデス星団) f



M45・プレアデス星団 f



M1・かに星雲 e



M41・散開星団 a



NGC2237・バラ星雲 b



M42・オリオン大星雲 c



馬頭星雲 d

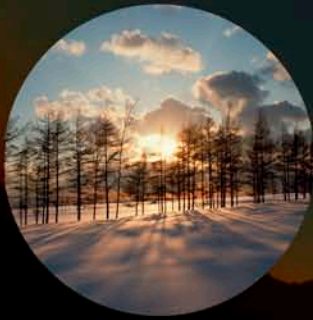
ふゆ せいざ かいせつ 冬の星座解説

冬、さむーい冬。

あなたは好きですか？ それとも…？

まるで息をしているかのように、きらきらとまたたく満天の星々。
色とりどりの星と天体がちりばめられた冬の星空を、
いっしょに楽しんでみませんか？

(約 20 分)

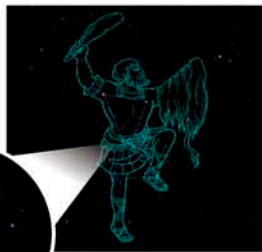


冬の星空散歩は、正面、南の空からスタート!

視線をちょっとあげた辺りに3つの星が一文字に並んでいませんか？これをリボンの結び目にたとえて、リボンを縦にしたような星の並びが見つかるはず。有名なオリオン座の目印ですね。冬の王者にふさわしい堂々とした姿です。このオリオン座では、星の生まれる様子や進化の様子を見ることが出来ます。3つの

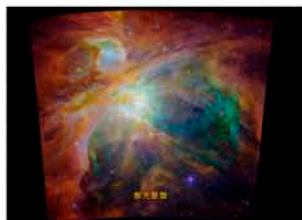


星が並んだ『三ツ星』の近くにはこんな天体が見つかります。黒くなった部分が馬の頭にそっくりなところから、『馬頭星雲』と呼ばれています。黒いガスのかたまりは『暗黒星雲』。このガスは新しい星の材料になるのです。



オリオン大星雲

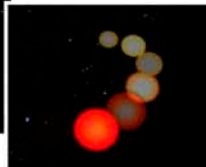
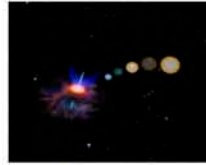
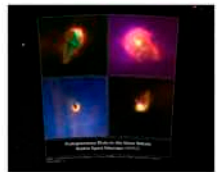
三ツ星の下に、縦に並んだ三つの星が小三ツ星。その小三ツ星の真ん中の星を、ぼおとした光のシミがつつんでいます。双眼鏡でのぞいてみると… みごとな星雲が姿をあらわしました。オリオン大星雲です。この星雲は、中心



にある星の群れが生まれる時、星になりきれなかったガスが、星々からエネルギーを吸収してガスを輝かせている姿なのです。このような星雲を『散光星雲』といいます。

星の一生

ハッブル宇宙望遠鏡は、生まれたばかりの若い星が、ガスとちりの円盤に取り囲まれている様子を初めてとらえました。このような円盤は、だんだんと成長し、三ツ星やオリオン座の左足に青白く輝く一等星、リゲルのように大量のエネルギーを放射して燃え盛る、現役バリバリの星へと進化。そして、だんだんと不安定になり、ふらふらになってしまいます。そんな星がオリオン座の右肩に輝く赤っぽい色の一等星、ベテルギウス。長い周期でふくらんだり縮んだりして、明るさを変える変光星です。さらにその後の姿は、おうし座の血走った目、一等星のアルデバラン。星の晩年の姿である赤色巨星です。星はどんどん進化していきます。星の一生の最後は一体どうなるのでしょうか？



冬の星座めぐりの見所、冬の大三角

恒星の中で一番明るい星は、おおいぬ座のシリウス。そばにはぼつんと輝くクリーム色の一等星、プロキオンをもつ弟分のこいぬ座があります。それらとオリオン座のベテルギウスを結び、きれいな正三角形ができました。これを『冬の大三角』といいます。この大三角の中には、バラ星雲と呼ばれる美しい星雲が隠れています。その他にもおうし座の角の先にあるかに星雲、肩のあたりに見える星のかたまり、プレアデス星団、シリウスの少し南にある M41 散開星団など、冬の夜空にはたくさんの個性豊かな星や美しい天体があふれています。



語り：遠藤みやこ 天体写真：NOAO/AURA/NSF, NASA/ESA 久保田宏
CG：NOBO 星座・説明イラスト：塚田洋子